

## DVD が世界を変える

角田義人  
(日立製作所)

CD に続く次世代の光ディスクとして、DVD (digital video disc) に大きな期待が寄せられている。実際、直径 12 cm の小さな円盤から再生されるきわめて美しい映像と迫力ある音響には、多くの人々の心を捕えて離さないものがある。

光ディスクが映像の大容量記録媒体として初めて実用化されたのが 1970 年代初頭、四半世紀後に再び映像の超大容量記録媒体として DVD が商品デビューすることは、この間技術開発に直接あるいは間接に携わってきた者として感慨深いものがある。この 25 年の間に光ディスクは記録密度が約 1 衍向上し、記録方式もアナログ記録からデジタル記録へと大きく進歩した。半導体レーザー、光ヘッド、アクチュエーター、記録材料等の部品・材料技術の進歩に加えて、データ記録再生方式、サーボ方式、信号処理方式、誤り訂正方式等の方式の改良の結果である。

DVD のインパクトはこれらの技術の進歩によるところが大きいが、商品コンセプトとして幅広い応用展開とディスクの互換性確保を追及している点が、従来の光ディスクと大きく違った DVD の魅力となっている。本来の映像に加えて、マルチメディアデータ、コンピューターデータ等幅広い情報の記録を可能とするうえ、さらに DVD-ROM, DVD-RAM, DVD-R 等の DVD ファミリー商品群の間でディスクを互いに交換して再生することができる。つまり、DVD は映画、音楽等のエンターテイメントの世界と PC, WS 等のコンピューターの世界をつなぐブリッジの役割を果たす初めての超大容量記録媒体といえる。

DVD ファミリー商品群の中でも、とくに情報の書換えができる DVD-RAM への期待は大きい。従来の PC 用の光ディスクメモリーと違って、きわめて大容量のデータを低コストで記録しランダムアクセスを可能とする。さらに記録したディスクを ROM プレーヤーやドライブで再生し TV や PC で楽しめる。マルチメディア時代に向けたまったく新しい概念の光ディスクといえよう。いずれ、PC に搭載する外部記憶装置はハードディスクと DVD-RAM の 2 つに集約され、従来のフロッピーディスクやテープ、光ディスクは姿を消すことになるかもしれない。

このように、DVD のインパクトは計り知れぬものがある。DVD が世界を変えるといつても過言ではなかろう。関係者の努力により早くその日が到来することを期待したい。